

月若遺跡出土小銅鐸について

- 1 指定区分
芦屋市指定有形文化財
- 2 指定年月日
平成24年4月1日
- 3 名称（よみ）
月若遺跡出土小銅鐸（つきわかいせきしゅつどうしょうどうたく）
- 4 員 数
1点
- 5 所有者
芦屋市
- 6 収蔵施設
芦屋市立美術博物館（芦屋市伊勢町12番25号）
- 7 年 代
弥生時代後期（2世紀頃）

8 概 要

月若遺跡（月若町）で平成19～20年度に実施された発掘調査で出土した青銅器です。鈕の上部と身裾部を失い、身自体も半壊していますが、残存高6.85cmの大きさと、鐸身・鈕共に無文です。重さは、現状で27.6gを計ります。鰭は認められず、鈕の取り付けは舞端より内側にある。型持孔はきわめて特異な長方形のものが両面で2対4孔、舞に方形のものが2孔あったと推定されます。その形態は銅鐸・小銅鐸を通じて本例が初めてのものです。

器面には鉄製の工具を使用した研磨痕や切断痕が残り、鑄造時の製作不良部分を目的とした形態に改良を試みた跡をとどめます。小銅鐸の破断口には時間差が確認でき、製作後に人為的に壊したことも推測されます。

小銅鐸の出土は全国に約60例ありますが、兵庫県下では本資料が2例目の出土です。東アジアの鐸形の銅製品の系譜を考える上にも貴重な資料であり、稀少な青銅器として高い学術的価値を有します。